



戦争法廃止 選挙に行こう

シールズ関西がデモ 京都

関西の大学生でつくる「SEALDS KANS AI」(シールズ関西)は、20日、京都市内で、来夏の参院選に向けて戦争法廃止の意思を示し続けようとデモを行い、1800人が参加しました。

サウンドカー2台を仕立て、軽快なラップ調のリズムに合わせたコールで「安保法制、絶対廃案」「選挙に行こうよ」と、2時間にわたり声を弾ませました。

専門学校生の塩見博子さん(22)は「勉強や就職のことで、社会への思考が止まりそうになる私がいる。思考が止まるとき、一部の権力者の利益の道にすすむ。私は断ち切りたい。そ

のためには主体者とならなければいけない」と述べました。

ニュージブラントに住む田中和琴さん(20)は、シリア空爆への自衛隊支援の危険を指摘し「安保法制は新たなテロリストを生む。『テロに屈しない』とのスローガンは『だれも殺さない』という誓いに変えなくてはいけない」とスピーチ。

安保関連法の廃止を求めデモする学生たち 20日、京都市

出発地点の円山公園で、日本共産党の倉林明子、民主党の福山哲郎両参院議員、社民党の飛鳥井佳子向日市議が訴えました。来年2月の京都市長選をたたかう本田久美子候補が参加しました。